

令和8年2月

予算大綱説明

豊橋市

本日、ここに令和8年3月豊橋市議会定例会を招集し、新年度予算のご審議をお願いするにあたり、市政運営について、所信の一端、予算の大綱を申し上げ、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力をいただきたく存じます。

我が国の総人口は2008年（平成20年）の1億2,808万人をピークに減少に転じ、少子化・高齢化により人口構造に大きな変化が生じています。とりわけ出生数は半世紀以上にわたり減少を続け、直近では2年前に70万人を割り、さらに加速しています。

豊橋市においても、25年後の2050年には人口が今より6万人以上減り、30万人を下回ると予測しており、人口減少への対応は大きな課題です。先人のたゆまぬ努力により築かれてきた豊橋市の豊かさ、住みよさを次の世代に継承していくには、今、私たちが直面する課題に向き合い、長期的な視点で人口減少を見据えた持続可能なまちづくりを進めていかなければなりません。そのため、人口構造の変移に適応したままとまりあるまちの形成を図りながら、活力の源である地域経済のさらなる成長、それを下支えするインフラ整備を進めることが重要です。

本市は豊かな自然環境と多彩な産業を持ち、日本のほぼ中央にあり、地理的条件にも恵まれています。令和7年3月の国道23号名豊道路の全線開通は、交通の利便性を大きく高めました。さらに、北部地域では本市初の高速道路インターチェンジとなる「豊橋新城スマート^{インターチェンジ} I C」（仮称）」を着実に整備し、本市へのアクセスがさらに向上します。この

機を捉え、地の利を生かし、新たな産業用地を確保、さらなる集積を図ります。全国屈指の農業産地を有する本市の強みを発揮できるアグリテックを中心に、スタートアップとの共創を推進し、地域産業を高めます。浜松湖西豊橋道路をはじめ物流と交流を支える広域幹線道路の整備促進、日本一の自動車輸入港である三河港の機能強化を国・愛知県・関係自治体と連携しながら積極的に推進し、充実した都市機能を強みに市内外から新たな人の流れを生み出します。多目的屋内施設及び豊橋公園東側エリアの整備は、市民の皆様がスポーツに親しみ、様々なエンターテインメントを楽しめる場、多世代が集う憩いの場にするとともに、災害時の活動機能を大きく強化します。同時に、まちのにぎわい、交流人口の拡大に寄与し、地域経済を活性化する新たな価値創出の拠点となるよう、多くの方々の思い、力を結集し整備を丁寧に進めます。

情報技術の急速な進展は、デジタル化を推進し、コンピューターサイエンスの発展をもたらしました。特にAI（人工知能）は様々な分野で幅広く活用され、生産性の向上、人手不足の解消につながると期待されています。自治体においても、人材確保の課題が顕在化、デジタル化の積極的な推進とともに、効率的な行政運営が求められています。市域を越えて人やサービスが動く医療・防災・交通・産業は、広域的な連携で維持・向上させることが可能です。歴史的、社会的、経済的なつながりを背景に、強固な絆を持つ東三河は、これまでも様々な課題を乗り越えながら健やかな暮らしを形成し、発展を遂げてきました。今後のまちづくりにおいても未来を見据えた持続可能な地域の形成に向け、広い視野

を持ち、共通する課題を見出し、スケールメリットを発揮するよう、市域、県域を越えた連携強化を図ります。複雑化・高度化する行政課題に対しては、多様な主体との連携が不可欠です。本市には特色ある3つの大学が立地し、人と地域とをつなぐ大きな強みとなっています。新年度は、愛知大学が開学から80年、豊橋技術科学大学が50年、豊橋創造大学が30年、一斉に記念すべき年を迎えます。大学のあるまちとして、各大学の専門的知見も生かし、多様な主体とのパートナーシップを築き、協働のまちづくりを推進します。

市長就任時の所信で表明したよう、私は、いつまでも豊橋に住み続けたい、大人になってまた帰ってきたくなるよう「楽しい子ども時代を過ごせる豊橋」をめざしています。子どもの幸せを第一に、環境にかかわらず誰もが生まれながらに持つ権利を守られ、幸せに暮らせるよう、子どもの権利に関する条例の制定に向け、子どもたちの声を聞き、有識者を交えた議論を本格的に開始します。子どもたちが笑顔で毎日を過ごせるよう、主体的に学び、成長していくための学習環境を充実します。子どもを支える全ての皆様にご協力いただき、学校や教室に行きづらさを感じる子どもが、自分に合う居場所を選択できるよう支援を広げていきます。

新年度は、市制施行120周年を迎えます。第6次総合計画後期基本計画がスタートし、まちづくりにおいて節目の年となります。本市のまちづくりの基本理念「私たちがつくる 未来をつくる」に込められた思いを胸に刻み、市民の皆様と心をひとつ、120年を踏みしめ、未来に向け

た新たな一歩を踏み出すため、変化を恐れず全力で取り組みます。

以上が、市政運営に臨む私の所信の一端です。続いて、新年度に取り組む、分野別計画に基づいた主な取り組みと基本的な考え方を申し上げます。

第1 「豊かな人間性を備え、未来を創る人が育つまち」

子育て支援・児童福祉の充実として、年々増加する児童相談に対応します。さらに、妊娠から出産、子育て、子どもの自立まで、すべての子どもへ切れ目ないサポートを実現する児童相談所の設置に向け、本市にふさわしいあり方、機能を検討し、基本構想を策定します。新年度にリニューアルオープンする、こども未来館「ここにこ」の改修に、市内外からたくさんのご寄附をいただきました。ありがとうございます。来館者に安全で快適な空間を提供し、デジタル技術を効果的に活用した新たな「まち空間」では、体験内容を充実させ、子どもたちの好奇心や夢を育み、様々な遊び、体験を通して成長できる場とします。

学校教育及び地域教育の推進では、小中学生の給食について、中学生は、本年1月の市議会で議決いただいたとおり、令和8年度は、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、無償提供します。小学生は、学校給食費の抜本的な負担軽減のため、国県から交付される新たな補助金に自主財源も加え、豊橋市では無償とし、子育て世帯へ

の支援を強化します。いじめ問題や不登校対策にあたる教職員を支援するため、生活サポート支援非常勤講師を増員します。学校に行きづらさを感じる子どものため、地域の学び場となる「とよはし陽だまりスペース」を生涯学習センターと豊橋市動物愛護センター「あいくる」に新たに設置します。夏休み限定の児童クラブを1か所増設、新年度は計9か所で開設し、増加する夏休みの入所希望に応えます。放課後や休日は、全小学校での「のびるん de スクール」、主に中学生向けの「Do のびるん de スクール」を通して、子どもたちの多様な体験、交流機会を充実します。

科学教育の推進では、自然史博物館に、関東地方より西で初めての特別企画展「ポケモン天文台」を開催します。本年9月から約2か月にわたり、幅広い世代に人気のポケモンを通して、宇宙の不思議、科学の楽しさを学べる機会とします。市外、県外より数万人の来豊が見込まれ、本市の魅力を体感いただく良い機会となりますので、積極的に情報発信を行います。

第2 「活力みなぎり、はつらつと働けるまち」

農業の振興として、ほ場や排水路の整備を着実に進め、農地の集積・集約化、効率化を図ります。高齢化と後継者不足が深刻な農業の課題解決に向け、担い手の新たな確保策として農業法人等の誘致可能性を調査します。スタートアップによる製品やサービスの実証開発を支援、農業者とスタートアップとの共創を促進します。

商工業の振興では、国道23号名豊道路の周辺などで産業拠点形成の検討を進め、官民連携による産業用地の早期確保に向けた新たな取組みを実施します。豊橋技術科学大学の次世代半導体・センサ科学研究所「アイリス I R E S²」を柱に、市内外からの企業進出、新事業開発を強力に後押し、半導体を核とする次世代産業の創出をめざし、企業や研究者の協業・連携を支援します。「ステーション エーアイ STATION A i」、シーアイシー・トウキョウ「CIC Tokyo」におけるスタートアップの誘致活動、オンラインマッチングプラットフォーム「とよはし共創ラボ」を通して、地域事業者の課題と全国のスタートアップの事業とを効果的にマッチングします。さらに、地元就職、U I J ターンの受け皿となる魅力的な仕事創出のため、株式上場に向けた企業の意欲等を調査し、具体的な支援策を検討します。

三河港の振興では、内航コンテナ助成金制度の活用を促し、コンテナ利用を促進します。物流と防災・減災機能の強化、DX・脱炭素を踏まえた港湾整備が進むよう、現港湾計画に掲げる事業の早期実施、次期港湾計画改訂の着実な推進について、関係機関と連携し港湾管理者に働きかけます。

第3 「命の安全、心の安心が確保されたまち」

危機管理の強化、防災・減災の推進として、小売事業者と連携した備蓄品の販売コーナーなどを通して、家庭内備蓄の促進を図ります。大規模災害時には市役所庁舎が機能不全に陥ることも想定し、災害に強い通信手段を確保するなど、迅速な初動対応や安全確保の情報提供が適切に

行われるよう、災害対応力を強化します。

消防・救急救命体制の充実では、市民の命を守る基幹施設である中消防署の大規模改修に向け、基本設計と実施設計に着手します。救急活動では、LINE WORKS を活用し、市内の病院と連携して傷病者の受入れを一斉に要請・確認する手法を構築、加えて、マイナ保険証を活用した傷病者の医療情報閲覧、いわゆる「マイナ救急」を本格運用し、一刻を争う救急現場活動の効率化を図ります。

生活衛生の確保では、豊橋市動物愛護センター「あいくる」において、SNS等を活用した情報発信や防災部局と連携した取組みを実施し、ペット防災の強化を図ります。教育機関やネーミングライツパートナーと連携し、子どもを中心に多様な学習機会を提供、適切な飼育管理の普及啓発を図り、動物愛護を推進します。

第4 「みんなで支え合い、笑顔で健やかに暮らせるまち」

健康づくりの推進として、新年度から定期接種となるRSウイルス感染症予防接種に関し、対象の妊婦に適切な周知を図り、接種を勧奨します。また、不妊治療への継続的な支援により、子どもを望む二人の一步を後押しします。

医療の充実では、市民病院において、救急入院センターの移設、スーパー^{アイシユウ}ICU（集中治療室）設置の改修工事を着実に進め、高度急性期機能をさらに充実、看護師をはじめとする医療スタッフを増員するなど、厳しい経営環境でも地域に信頼される病院を運営します。

高齢者福祉・介護の充実では、認知症の早期発見、早期対応のため、初期段階の集中的な支援体制を拡充、認知症が疑われる方やその家族への支援を強化します。認知症当事者の思いや実体験を伝える映画上映を通して、認知症への理解促進、正しい知識の普及啓発に努めます。

第5 「互いを尊重し合い、心豊かに暮らせるまち」

スポーツの推進として、本年9月、10月に「第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）」、「第5回アジアパラ競技大会（2026/愛知・名古屋）」が開催されます。本市は、野球、空手、テコンドー、ゴールボールの会場であり、アジアトップ選手のプレーを間近で体感できます。大会期間中は国内、海外から多くの来豊が見込まれます。市民の皆様と協力し、聖火リレーをはじめ様々なイベントを通して大会を盛り上げます。日本初開催となるアジアパラ競技大会を契機に、パラスポーツを通して、誰もが日常的にスポーツを楽しむ共生社会をめざします。豊橋総合スポーツ公園に整備する野球場については、学識者の意見も取り入れ、防災機能の強化を図り、快適な競技環境の実現に向け、整備を丁寧に進めます。

歴史文化の継承では、馬越長火塚古墳群の史跡公園化に向け、「豊橋新城スマート^{インターチェンジ} I C（仮称）周辺土地利用構想」や文化財保存活用地域計画に基づき、基本計画の策定に取り組みます。吉田城址については、樹木管理計画を策定し、石垣や土塁を保護するとともに、良好な景観を確保、魅力をさらに高めます。

市民協働の推進では、豊橋わかば議会において、若者たちがワークショップや議論を通して夢・想いを込め、提案した4つの政策を事業化し、若者の取組みを市の施策に反映します。新年度も多くの若者が関心を寄せ、本市のまちづくりに参加してくれることを期待します。

第6 「魅力にあふれ、いきいきとにぎわいあるまち」

まちなかの活性化として、公共空間を活用した様々なイベントを開催、官民連携でにぎわいを創出します。豊橋花園・魚町地区をはじめとする再開発を引き続き支援、豊橋駅西口駅前広場では、歩行者の安全など交通環境の改善に向け、再整備の方向性を検討、魅力的なまちなかの形成に引き続き取り組みます。

観光の振興では、とよはしミュージックアンバサダー「04 Limited ^{フォー リミテッド} _{サザビーズ}」の^{ゲン}GEN氏と連携した野外フリーライブや音楽に親しめるまちとして若者に向けた事業を通して、観光誘客と若者の夢への挑戦を後押しします。自然史博物館でのポケモン天文台と連携し、市内各所にフォトスポットを設置、スタンプラリーの開催等、市内飲食店などと協力してポケモン天文台を応援します。

のんほいパークの魅力向上では、アジアゾウの繁殖をめざし、新たなゾウ舎と放飼場を整備します。日本初となるテナガザルとの混合飼育も計画しています。ご好評の「ナイトZOO」をはじめ多彩なおもてなしで来園者の増加に努めるとともに、生物多様性を保全、動物福祉を推進し、学びの場としても親しまれる施設運営とします。

第7 「自然と共生し、地球環境を大切にすまち」

気候変動対策として、市内事業者の脱炭素を促進するため、「知る」、「測る」、「減らす」をキーワードに段階に応じた支援を展開、官民一体で「ゼロカーボンシティとよはし」に向け取り組みます。普及啓発イベントなどを通して、気候変動がもたらす影響や対応策について理解を深め、市民の行動変容を促します。

資源循環の推進では、市民ニーズの多様化やごみステーションを管理する自治会の負担を考え、ステーション収集に代わる戸別収集について、モデル地区を定め、具体的な実証実験を行い、ごみ収集を取り巻く課題解決に向けた検証を深めます。本市と田原市とで整備している新たなごみ処理施設では、建設工事が本格化しており、周辺地域への配慮と市民の皆様への安全対策を図りながら着実に進めます。

第8 「暮らしの基盤が整った、便利で快適なまち」

都市空間の形成として、事前復興まちづくり計画の策定に取り組み、まちの課題整理、復興に向けたまちづくりの方向性やプロセスを定め、大規模災害に備えます。土地区画整理事業の牛川西部地区、柳生川南部地区で、着実な事業進捗を図ります。長期未着手の区画整理地区においては、都市基盤施設に関する課題解決に向け、地域の方々と共に新たなまちづくりを推進します。

交通環境の充実では、都市計画道路東松山大岩線の未整備区間の事業

化に向け、概略設計に着手、明海町・老津町 28 号線をはじめとする主要な道路の整備を着実に進め、交通渋滞や沿道環境の改善を図ります。災害時の交通環境を保持するため、市街地から市民病院へ向かう緊急輸送道路の無電柱化も進めます。

住宅環境の整備では、単身高齢者世帯の増加により、賃貸住宅への円滑な入居支援の必要性が高まっています。住宅確保要配慮者に対する支援について、住宅、福祉の関係団体と協働で検討を開始、併せて、空家等を活用した要配慮者向け賃貸住宅のリフォームプランを学生が提案する取組みを行います。魅力的な提案を期待しています。

水道水の安定供給及び下水の適正処理では、全国特別重点調査に基づく下水道管路の更新、老朽化した上下水道施設の改築等を着実に実施、上下水道一体で避難所等の重要施設に接続する管路等を耐震化します。

そして、基本計画推進のため、新年度に取り組む主な事業です。

まずは、市制施行 120 周年記念事業です。記念式典に加え、学生が企画から実施まで作り上げ、まちへの想いを実現するアニバーサリーイベントを開催します。また、ポケモン天文台、第 70 回の豊橋まつりなど、まち全体で記念すべき年をお祝いします。

次に、広域行政です。国道 23 号名豊道路暫定 2 車線区間の早期 4 車線化、臨港道路東三河臨海線の早期実現、着実な設楽ダム整備など、この地域の発展に欠かせない主要なインフラ整備の加速に向け、関係自治体や経済界と連携し、地域一体となり、国や県に対し強く働きかけます。

市役所業務の改善です。本市が締結する契約の一部に電子契約を導入します。住宅使用料等を地方税統一QRコード（e^{エル}L-Q^{キューアール}R）で納付できるよう、令和9年度から運用を始めます。火災予防に関する申請のオンライン化と手数料のキャッシュレス化、建築確認申請の将来のオンライン化を見据えたデータベース化、マイナンバーカード申請をリモートで支援する新たな窓口の設置など、デジタル化を推進し、利便性向上と窓口業務の効率化を図ります。職場内のハラスメント対応として、外部相談窓口、有識者で構成する対応委員会を新たに設置し、職員がいつでも相談でき、安心して働ける環境を整えます。

新年度は、行財政改革プラン、公共施設等総合管理計画など、本市の方向性を示す様々な計画の新たな期間がスタートします。議員各位をはじめ、市民の皆様のご理解、ご協力をいただき、計画に掲げた目標に向け、力を尽くします。

以上が、新年度に実施する主な事業です。

景気の緩やかな回復を受け、市税収入の増加を見込むものの、地方財政計画による試算では普通交付税を見込めず、厳しい歳入環境にあります。他方、歳出は、社会保障関係費をはじめとする義務的経費、大型事業の進展による投資的経費の増加にも対応した結果、予算規模は過去最大となりました。このため、増大する財政需要に対して、限られた財源を有効に活用し、事業の選択と重点化、着実な財源確保に取り組み、健全で持続可能な行財政運営に努めます。

これまでご説明申し上げた施策を盛り込み編成した新年度予算は、

一般会計	1,656億1,000万円
特別会計	779億1,200万円
企業会計	696億4,600万円
全会計で	3,131億6,800万円 です。

議員各位をはじめ、市民の皆様に、今後とも市政に対する深いご理解とご協力をお願い申し上げ、予算大綱説明とします。

— 補正予算 —

続いて、令和7年度の補正予算を説明します。

今回、一般会計	90億7,857万9千円の増額
特別会計	3億9,605万8千円の増額
合計で	94億7,463万7千円の増額補正をお願いし ます。

以下、主な内容を説明します。

アメリカの関税措置や物価高に対応する県の融資制度の利用に対し、信用保証料や融資額1%相当額を助成し、物価高騰などの影響を受ける市内事業者を支援します。青陵中学校をはじめ小中学校に関する改良事

業のほか、防災・減災を目的とした介護施設の改修等への助成、ほ場整備など県営事業の負担金等について、増額の補正をお願いしています。国の公定価格の改定及び令和7年度補正予算で新たに創設された加算措置を踏まえ、保育施設に対する施設型給付費について増額を、連動する人件費補助金について、減額の補正を併せてお願いしています。戸籍の氏名に登録された振り仮名を一括して住民基本台帳等に記載するためのシステム改修、退職者数の増加に伴う退職手当、令和6年度の精算等により必要となる国県補助金の返還金などについて、増額の補正をお願いしています。このほか、小中学校屋内運動場空調設備整備事業をはじめとする継続費の変更及び追加、年度内執行が困難な事業については、繰越明許費の変更及び追加をそれぞれお願いしています。

篤志の方からのご寄附について、ご意向に沿い、応急手当普及啓発資器材等に活用することとしています。

特別会計では、国民健康保険事業において、令和6年度の精算により生じた国庫補助金の返還金を、後期高齢者医療では、医療給付費負担金の精算や保険料収入の増加に伴う後期高齢者医療広域連合納付金について、それぞれ増額の補正をお願いしています。

以上が今回の補正予算の主なものです。このほか、今定例会に多くの条例案、単行案を提出しています。詳細については、議事の進行に伴い、関係部課長からそれぞれご説明します。よろしく願いいたします。

